

知恵 知ってこ生活の知恵

暮らしのアドバイス No.136

ファイナンシャル 仲西 康至 (音江町在住)



先日、熱海での土石流では、多くの家が土砂にのみ込まれました。今年も早くも豪雨による川の氾濫がニュースで伝えられるなど、自然災害の脅威は、年々と大きくなってきているように感じられます。こうした自然災害から、自分の家を守るのが「火災保険」です。

しかし、世界的な気候変動による自然災害が深刻化することで、自然災害に対する保険金の支払いが増加傾向にあります。そのことから、「火災保険」の保険料金の引き上げが止まりません。大手保険会社では2018年と2019年に2年連続で火災保険料の引き上げを行いました。さらに2021年も火災保険料が見直される予定です。

大手保険会社にとって火災保険は自動車保険と並ぶ主力商品です

自然災害の増加から火災保険料がさらに引き上げ



が、火災保険に関しては11年連続で赤字を出していることから、直近4年間で3度目の保険料引き上げが予定されています。また、今回の保険料はおおよそ20%程度の上昇が見込まれており、私たちの家計にも大きな負担となります。

さらに、火災保険は単なる保険料の引き上げにとどまらず、今後は保障内容等の見直しも検討されています。

例えば、一般住宅向け火災保険の長期契約（最長10年間）が5年間に短縮される見通しです。自然災害の増加により、長期のリスク評価が難しく、10年間保険料を見直せない長期契約の期間が短縮される予定です。このことから長期契約者にとっては、実質の値上げとなります。また、これまで全国一律でありました、水害に対する保険料率も、地域差が設定される見通しです。

これまで同じ都道府県内であれば、基本的に同意率成保険料について、河川数などのリスクの高い地域では、火災保険料がさらに引き上げられる可能性があります。私たちは自然の中で生かされていると考えると、自然に対するリスク対策として、火災保険は大切なアイテムです。保険料の引き上げによる家計への負担は否めませんが、備えは必要なことでもあります。